

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策No.123

記入日 平成25年 7月19日

点検日 平成25年 8月 8日

施策名	芸術・文化の振興	実施担当マネージャー	生涯学習部次長	マネージャー氏名	山口 清	内線	477
政策展開の基本方向	1 「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	政策	1.2 生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります				
関連計画・根拠法令等	①文化芸術振興基本法 文化財保護法 ② 文化財保護法		③鎌ヶ谷市生涯学習推進基本計画		④国史跡下総小金中野牧跡保存管理計画 鎌ヶ谷市史刊行計画		

1. 施策の目的・成果	(1) 施策の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。)																																																										
	①市民 ②(仮称)文化センター ③文化財																																																										
	(2) 施策の意図(対象をどのような状態にするのか)																																																										
	①地域に根ざした市民文化が創造され、その活動が広く展開されている。 ②市民文化の創造・活動拠点となる(仮称)文化センターが設置されている。 ③歴史、文化遺産が適切に保存・継承され、周知活用されている。																																																										
3. 施策の成果	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">指標名</th> <th>単位</th> <th>平成21年度実績</th> <th>平成22年度実績</th> <th>平成23年度実績</th> <th>平成24年度実績</th> <th>目標値 (目標年度27年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">施策</td> <td>市民文化祭等市共催芸術文化事業参加・発表者数</td> <td>人</td> <td>2,290</td> <td>2,320</td> <td>1,600</td> <td>1,664</td> <td>2,500</td> </tr> <tr> <td>指定文化財数</td> <td>件</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">基本事業</td> <td>市民文化祭参加団体数</td> <td>団体</td> <td>138</td> <td>128</td> <td>114</td> <td>127</td> <td>138</td> </tr> <tr> <td>市史等刊行図書数</td> <td>点</td> <td>43</td> <td>45</td> <td>48</td> <td>50</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							指標名		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	目標値 (目標年度27年度)	施策	市民文化祭等市共催芸術文化事業参加・発表者数	人	2,290	2,320	1,600	1,664	2,500	指定文化財数	件	29	29	29	29	30	基本事業	市民文化祭参加団体数	団体	138	128	114	127	138	市史等刊行図書数	点	43	45	48	50	57														
	指標名		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	目標値 (目標年度27年度)																																																			
	施策	市民文化祭等市共催芸術文化事業参加・発表者数	人	2,290	2,320	1,600	1,664	2,500																																																			
		指定文化財数	件	29	29	29	29	30																																																			
	基本事業	市民文化祭参加団体数	団体	138	128	114	127	138																																																			
		市史等刊行図書数	点	43	45	48	50	57																																																			

2. コストの推移	年度	単位	平成21年度 決算	平成22年度 決算	平成23年度 決算	平成24年度 決算見込み額	平成25年度 予算額	目標年度( 年度) 今後の計画総額
	コスト・指標	千円						
	(1) 総事業費 自動計算		26,867	24,670	233,081	363,778	1,707,764	0
	① 国庫支出金	千円	1,975	1,975	1,975	33,800	145,132	
	② 県支出金	千円	493	493	493	450	450	
	③ 市債・その他財源	千円	1,848		2,613	44,595	1,132,648	
	④ 一般財源	千円	22,551	22,202	228,000	284,933	429,534	
	(2) 総所要時間(0.5単位) ①+②+③ 自動計算	時間 /年	19,086	16,656	28,351	30,709	0	0
① 正職員(時間内)	時間 /年	16,000	13,600	23,930	27,400			
② 正職員(時間外)	時間 /年	1,251	921	2,281	2,489			
③ 非常勤職員	時間 /年	1,835	2,135	2,140	820			

3. コスト説明	(1) 市民一人あたりコスト	円	334	(2) 全施策中の順位	この施策は、全42施策中	14	番目にコストをかけています。
----------	----------------	---	-----	-------------	--------------	----	----------------

4. 環境分析	(1) 過去5年間で施策を取り巻く環境はどのように変わったか	国史跡指定、開発行為に伴う埋蔵文化財発掘調査の増加	(2) 今後施策を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	市民の文化芸術に対する関心が高まる。また、高齢人口の増大により、地域の歴史に対して興味・関心を持つ人が増加すると思われる。
	(3) 施策について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見等)	文化ホール建設	(4) 国・千葉県の方針並びに関係法規等の変化	千葉県教育の戦略的ビジョンの策定

優先度	事務事業名	担当課							
A	(仮称)文化センター整備事業	文化・スポーツ課							
	国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業	文化・スポーツ課							
B	文化財保護に要する経費	文化・スポーツ課							
	文化振興に要する経費	文化・スポーツ課							
	郷土資料館の管理運営に要する経費	文化・スポーツ課							
C	鎌ヶ谷市史編さん事業	文化・スポーツ課							
	出土文化財基礎整理作業	文化・スポーツ課							
	民間開発による埋蔵文化財調査に要する経費	文化・スポーツ課							

①施策の中で優先度が高い事務事業から順に、A→B→Cの3区分で表示しています。  
 ②優先度の判断は、「施策貢献度」「行政の果たす役割の大きさ」「投資効果」「市民ニーズ」「緊急性」の5つの尺度で相対的に判断した結果です。

6. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？市民等との役割分担は適切か？文化財保護法等により供養委員会等の任務または事務として定められている。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)施策の目的は政策にどのように結びついているか。市民が芸術文化に接する社会生活を送ることで、生きがいのある暮らしを送ることができる。
	(3)公平性	2: 普通	(理由)対象は偏っていないか？対象を広げたり狭めたりできないか？限りある施設を利用して芸術文化の振興にかかる事業を展開しており、市民ニーズに十分には応えられない状況にあることから、市民は他団体の施設を利用し活動している。したがって、対象を広げたり十分に活動することには制約がある。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この施策を廃止した場合支障があるか。同じ目的を持つ他の施策はあるか？さらに成果指標を伸ばせないか？芸術文化の振興は、生涯学習分野の一部であることから必要な施策であり、他の施策に変えることができない。
	(5)効率性	2: 普通	(理由)コストがかかりすぎているか？どうしたらコスト、所要時間を縮減できるか？市民との協働を推進し、現状を維持する。
	(6)総合評価	7: 拡充	(今後の方向内容) 芸術文化事業や国史跡の周知事業等において市民との協働が増加傾向にあり、今後も推進していく必要がある。

7. 改革・改善案	(1)改革・改善の方向	コスト縮減して現状を維持する。
	(2)改革・改善案の概要 ※指標改善の根拠とコストを示す	施策の展開において、市民との協働型に移行し、市民の事業への参加を推進することでコストの縮減を図る。
	(3)改革・改善案の問題要因と克服策	市民との協働が定着していくために必要な市民と行政との相互理解及び信頼関係の構築に時間を要するが、急がず粘り強く進めることとする。
	(4)改革・改善案導入の考え方 ※施策担当マネジャー所感	生涯学習の様々な機会を利用して、文化芸術の担い手となる市民を育成していくことでコストの縮減が図れるので、その育成自体が生涯学習の目的となる。

8. 成果とコストの方向性	成果の方向性	向上	○			
		維持				
		低下				
			縮減	維持	増加	
			コストの方向性			

成果とコストの方向性に関する説明

芸術文化の振興は、市民との協働を進めることで更なるコストが縮減でき、また市民活動の活性化に資する。

※評価検討(1)～(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない  
 ※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 現状維持、7: 拡充  
 1 終了: 事業が完了したので、終了する      2 廃止: 事業を廃止する  
 4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する      5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する  
 7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する      3 休止: 再開を前提に休止する  
 6 精査・検証: 精査・検証の上継続する